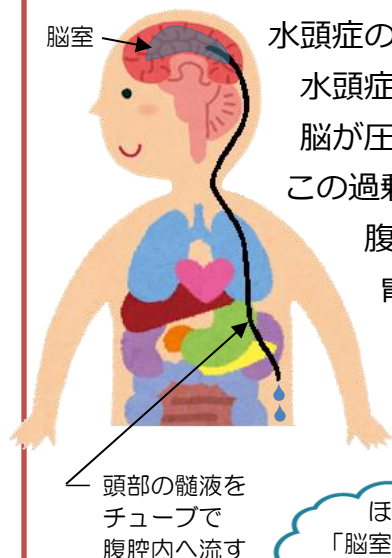


VP(脳室・腹腔)シャント



子ども達に「勇気、夢として笑顔」を

VP シャントとは



水頭症の治療で現在最も一般的な方法です。

水頭症とは、頭蓋内に過剰に髄液がたまり、脳が圧迫を受けて様々な症状が出る病気です。この過剰にたまった髄液を、脳室（頭部）から腹腔内（いわゆる「おなかのなか」、胃や腸などの臓器が納まっている空間）に細いチューブを通し、流してやることで、水頭症を改善します。

これを VP シャントといいます。

ほかにも脳室から心房に髄液を導く「脳室-心房シャント（V-A シャント）」、腰椎くも膜下腔から腹腔へ髄液を導く「腰椎-腹腔シャント（L-P シャント）」がありますが、小児では一般的ではありません。



シャント装置の種類について

頭の中の髄液が流れすぎないように、シャントには「バルブ」と呼ばれる、髄液の流量を調整する装置がついています。バルブにはいろいろな種類があります。

○圧可変式バルブ：流量を後から磁力によって変えられます。

種類によっては生活中の強い磁力によって意図せず流量が変わってしまうことがあります。

○固定圧バルブ：一定の圧で髄液を流し、埋め込んだ後は変更できません。

○その他、体位による流量の差を小さくする装置などを加えて留置することがあります。

どれを使用するかは、水頭症の程度や原因、症状や普段の生活のしかたによって決めます。

シャント手術について

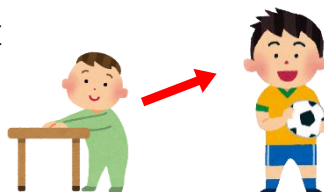
身体の中にチューブを埋め込む手術を行います。

手術は全身麻酔で、およそ 1～2 時間程度です。



シャントの合併症について

- ①小児の場合、特に新生児～乳児のときに手術を行った場合は成長に伴って腹腔内のチューブが短くなるため、入れ替えを必要とすることがあります。



- ②シャントのチューブは異物ですので、菌が増えて感染をおこすことがあります。



- ③チューブが脳室内の組織など、何らかの異物で閉塞することがあります。

- ④チューブが折れ曲がったり、切れてしまう可能性があります。

- ⑤バルブが破損することがあります。

- ⑥脳室内から髄液が流れすぎてしまい、脳室が薄くなったり硬膜下血腫などの出血を起こすことがあります。

いずれも、水頭症の症状の出現や増悪でみつかることが多く、これらが起こると、①以外はほとんど緊急手術でシャントの入れ替えが必要となります。





地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

＜脳神経外科＞

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605